

繊維類の保存に用いられた薬用植物の防虫に関する研究(第1報)

— 薬用植物による防虫の歴史的考察 —

韓美京・大沢眞澄・櫻井清彦

1. はじめに

中国、韓国、日本では昔から繊維類資料を虫害から守るために多くの薬用植物が用いられてきた。今も韓国の佛腹蔵遺物(胎内納入品)や日本の正倉院所蔵品がほとんど損傷なしに原形を保ちながら我々にその絢爛たる歴史を伝えてくれる。特に正倉院の遺品は世界の人類にとって正に最高の古文化財である。どのようにしてその保存が効果的に続いたのであろうか。

現在見られる韓国の腹蔵遺物は、新羅時代(57B.C. ~ 935)まで遡って751年に建てられた慶州佛国寺3層石塔の腹蔵品から陀羅尼経と香木が苧布に包まれて発見された。その後766年の毘盧遮那佛をはじめとして、1778年の大勢至菩薩像の腹蔵遺物まで40件以上の佛腹蔵物が知られている。正倉院の宝物は756年光明皇太后が聖武天皇の49忌日に天皇遺愛の品々を東大寺大仏に献じたものを中心に、奈良時代以来の伝世品をはじめ各時代の宝物が追納されて今日に至っている。

韓国の場合、経典類や服飾類を含めたこれら腹蔵遺物が長い年月にもかかわらず原形が保たれたのは、一緒に腹蔵された薬香や薬草などが防虫剤の役割をしたからだといわれているし、実際朝鮮時代(1392~1910)には書庫の曝涼の時に、川芎(センキュウ、おんなかずら)や菖蒲のような薬用植物の粉末を入れて書籍を保存してきた。同様に正倉院の場合にも多くの薬用植物と合香袋が伝えられてきて、保存用としても用いられた。今も博物館、美術館、図書館などで防虫香が繊維類資料の保存に使用されている。

中国の場合は早くも両晋時代(265~420)に、黄蘗(オウバク、きはだ)に殺虫効果があることを発見して、黄蘗の溶液で染めた黄紙が使われていた。

これら3つの国では、いろいろな方法で薬用植物を用いて布や紙などの繊維類資料を保存してきた。その方法としては、石菖蒲、川芎などを本や箆笥の中に入れたり、黄蘗や藍などでは経典や衣服を染めたりした。さらに、丁香(チョウコウ)、甘松香(カンショウコウ)、沈香(ジンコウ)など、いくつかの種類の薬用植物を混ぜて使ったりもして、害虫の被害を食い止めようとした。

本研究では、これら薬用植物は医薬品として使われている中国の漢方にその基本があるという視点から、中国、韓国、日本の3国での経典類や服飾類の繊維類文化財がいかんして保存されてきたかについて通史的に考察する。

2. 古代（中国は五代，韓国は統一新羅，日本は平安時代に当たる約10世紀頃まで）

2-1 中国：黄蘗で紙を染めたり（銭：1986），本箱の中に木瓜（モッカ，ほけ）を入れて，または糊を煮る時薫陸香（クンロクコウ，乳香）の粉末を入れて虫が付かないようにした（周：1984）。衣香の合香としては青桂皮・苜蓿香（モクシュクコウ，うまごやし）・丁香・藿香（カッコウ，かわみどり）・沈香・甘松香・零陵香（レイリョウコウ，まめ科）・青木香・艾納香（ガイノウコウ，たかさこぎく）・白檀香などが使われた（孫思貌：元版）。

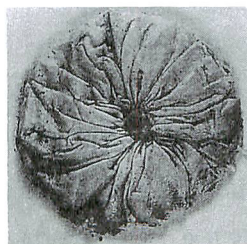
2-2 韓国：経典類や服飾類と一緒に腹蔵された葉香や葉草が佛腹蔵遺物において防虫剤の役割をしてきた。仏像の造成に関する経典の造像経（表1）には，五穀として大麦・黍・稲・菘豆（リョクトウ，やえなり）・麻子を，五葉として人参・甘草（カンゾウ）・桂心・阿梨・附子（ブシ，とりかぶと）を，五香として青木香・丁香・藿香・沈香・乳

表1 韓国造像經に見える五方位による腹蔵物の構成
Table 1 Composition of the inner part of Images of Buddha following the five directions in Sutras containing instructions for moulding Images of Buddha (造像經) in Korea

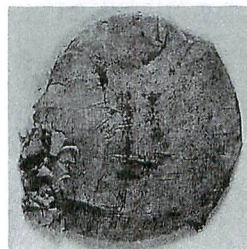
区 分	東	南	西	北	中	意 味
五 鏡	方 鏡	三角鏡	圓 鏡	半月鏡	圓 鏡	佛 智
五 輪	青 綯	紅 綯	白 綯	黑 綯	黃 綯	五 方 佛
五 眞心	阿 闍	寶 生	彌 陀	不 空	毘 盧	如 來
五 寶	瓶 青瑪瑙	黃摩尼	紅 珊瑚	綠 琉璃	白水晶	住 不 減
五 穀	大 麥	真 稷	生 稻	琉 菘	麻 豆	金 剛
五 葉	寶 生	真 珠	生 銀	琉 璃	琥 珀	法 王
五 香	人 參	甘 草	桂 心	阿 沈	附 子	五 分 法 身 香
五 黃	大 黃	雄 黃	小 黃	雌 黃	牛 黃	
五 芥	子 芥	青 蘿	紫 芥	白 芥	青 芥	
五 色	青 糸	紅 線	赤 線	白 線	黑 線	
五 時	花 青時花	赤時花	夜合樹葉	白時花	黑時花	
五 菩提樹葉	青樹葉	楸樹葉	夜合樹葉	梧 桐	檉 樹	等 正 覺
五 吉祥草	矩舍草	摩 訶	室 利	蕊	悉 黨	

香を，五菩提樹葉として青樹葉・楸（ヒサギ）樹葉・夜合（ネム）樹葉・梧桐（アオギリ）樹葉・檉（カワラヤナギ）樹葉などを入れるとある（温陽民俗博物館：1991）。

2-3 日本：東大寺献物の御書や書法を納めた箱に防虫剤として裏衣香（エビコウ）を用いた（写真1）。中には零陵香・丁香・藿香・沈香・甘松香・白檀香が入っていた（松島：1975，山田：1963）。また，菖蒲の花や粉末を敷物の下に置いたりもした（丹波：1994）。



第1号 箱蓋 No.1. View from above.



第1号 外底 No.1. Reverse side.

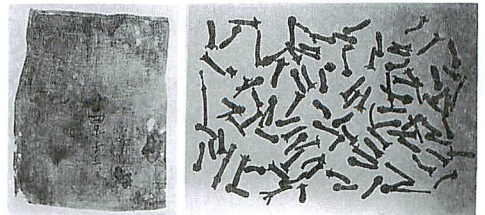


写真1 「正倉院宝物」の裏衣香（直径12~16cm）と丁香

1. 裏衣香（『正倉院宝物』5 中倉II，1995）
2. 経巻の防虫に使われた丁香とその袋（『正倉院宝物』2 北倉II，1996）

Photo. 1 Ebiko incense and cloves, Shosoin, Japan

3. 中世（元，高麗，鎌倉時代に当たる約14世紀頃まで）

3-1 中国：石菖蒲・零陵香・白芷（ビャクシ，よろいぐさ）・皂莢（ソウキョウ，さいかち）・高菘（ワキョウ，ちしゃ）・茱萸（シュユ）・芸香（ウンコウ，ヘンルーダ）を本や箱の中に入れてたり（沈：1978，周：1984），蜀椒（シヨクシヨ，花椒・川椒）・胡椒・辣椒（ラッシュョウ，しまとうがらし）・百部（ビャクブ，ほどずら）で染めた。蜀椒や百部には殺虫効果があって，製本時の膠剤にも使われた（潘：1979）。仏像の中（表2，写真2）には沈香・安息香（アンソクコウ）・白檀香などが入っていた（倉田：1970，清水：1981，田辺：1969，Yetts：1936）。

表2 中国佛像の中での薬用植物の発見事例
Table 2 Findings on the medicinal herbs in the Chinese Images of Buddha

所 藏 所 名	造成時代	仏 像 名	遺 物 内 容
日本京都 清涼寺	985	木造釈迦如来立像	絹製五臓中に沈香・安息香・檀香
日本神奈川県立歴史博物館	11~12C頃	木造菩薩半跏像	絹製五臓中に香木・五穀・木の葉
米国メトロポリタン美術館	1282	木造観音菩薩立像	絹製五臓中に香木・五穀・貴石片
英国ヴィクトリア・アルバート博物館	1374	木造菩薩半跏像	絹製五臓中に香木・絹製修理銘文・小銅鏡・真鍮鈴・綿・麦・米・豆・2種類の稷の五穀
米国メトロポリタン美術館	1411	木造釈迦如来立像	絹製五臓中に香木・五穀
米国シアトル美術館	明代	木造童子像	絹製五臓中に香木・五穀
日本金沢 康楽寺	明代	木造千手観音坐像	絹製五臓中に香木・五穀
日本宮崎 正覚寺	明代	銅造観音菩薩坐像	絹製五臓中に香木・五穀

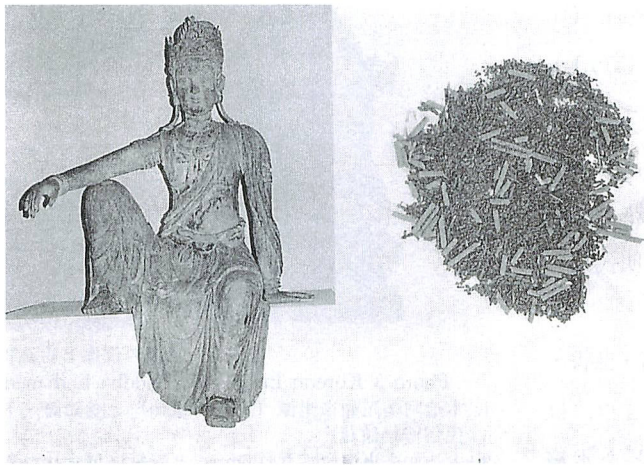


写真2 中国製木造菩薩半跏像（高さ99.4cm）と胎内物の薬用植物（神奈川県立歴史博物館蔵）
Photo.2 Chinese Image of Buddha and some medicinal herbs therein

3-2 韓国：防虫のために川芎や菖蒲の水浸液で製本用の糊を作って使った（趙：1978）。佛腹蔵遺物の中（写真3）で今まで同定された薬用植物は表3に示した（温陽民俗博物館：1991，許興植：1986，閔：1966，姜：1975，洪潤植：1984，文：1968，崔：1977，菊竹：1974，洪思俊：1976）。

3-3 日本：丁香・山茶（ツバキ）・柿渋・鬱金などで紙や布を染めて防虫効果を図った（田中：1991）。

胎内納入物で香木や薬香が認められたのを表4に示す（倉田：1970，奥：1997，田辺：1978）。

4. 近世（清，朝鮮，江戸・明治時代に当たる約19世紀頃まで）

4-1 中国：苦楝子（クレンシ，せんだん）・白芨（ビャクギョウ，しらん）などを混ぜて糊を作ったり（周：1984），樟脳・銀杏を本箱に入れたり，楸・杉・桐・梓（アカガシワ）材の箱で虫害を防いだ（潘：1979）。衣香の合香としては樟脳・白檀・薰陸香・大黃・茅香（ボウコウ，せいようこうぼう）・三奈子（サンナシ，ほんごん）・白芷・松子（ショウシ，まつかさ）・丁香・木香・牡丹などが用いられた（孫應奎：明代）。

4-2 韓国：川芎・菖蒲・芸香・煙草・蓬・花椒（カシウ，はなはじかみ）・樟脳などを本箱に入れたりあるいは茅香・零陵香・丁香・藿香・沈香・甘松香・白芷・八角香（ハッカクコウ，大茴香）・桂皮・白檀香・大茴香・竜腦・乳香・安息香・厚朴（コウボク，ほおがしわ）などを混ぜた衣香を箆筒の中に入れた。黄連・高苳・蜀椒・黄蘗に染めて蝕まないようにした（夔：1978，許浚：1994，洪萬善：1983，鄭：1975，韓：1990）。

4-3 日本：匂袋として零陵香・丁香・藿香・沈香・甘松香・白檀・竜腦・梅仁・菊・薰陸香などを



写真3 韓国の佛像と腹藏物

Photo.3 Korean Images of Buddha and medicinal herbs therein

1. 木造阿彌陀如来坐像（高さ37.5cm）と喉鈴筒・五寶瓶・薬用植物（温陽民俗博物館蔵）
2. 木造如来坐像（高さ41.5cm）と韓紙に包まれた薬用植物（莞島観音寺蔵）
3. 木造大勢至菩薩像（高さ28cm）と五寶瓶・薬用植物（温陽民俗博物館蔵）（韓國의 佛腹藏遺物特別展，1990；『1302年阿彌陀佛腹藏物の調査研究』，1991）

表3 韓国の佛腹藏遺物中の薬用植物
Table 3 Medicinal herbs enshrined in the Korean Images of Buddha

所 藏 所 名	造成年	腹 藏 佛 名	薬 用 植 物 目 録
温陽民俗博物館	1302	阿彌陀佛像	一握りの丁香と大茴香・3片の白檀香・胡椒の実・山茶・甘松香・11片の肉桂その他未詳の葉と薬剤・穀物
大邱 白宗欽	1322	青銅千手観音像	香木と3粒の稲
青陽 長谷寺	1346	金銅薬師如来像	麻子・芥子など数種の植物種子と草根
瑞山 文殊寺	1346	金銅如来坐像	豆と米に沈香・小麦と黍と附子に乳香・稷と甘草に丁香・稲と小麦と桂心に藿香・小麦と阿子に2片の人蔘
平昌 上院寺	1466	木造文殊童子像	香木と人蔘
洪城 高山寺	1543	木造如来坐像	麻子・40粒の乳香・数100粒の黄芩・木皮・檉樹葉
莞島 観音寺	1569	木造如来坐像	沈香・阿梨・菘豆と黄芩・丁香・甘草と附子・乳香・黄芩・麻子と桂皮・藿香・稲と人蔘・大黃・時蘿・木香など
日本対島上対馬慶龍院	1609	木造薬師如来坐像	丁香・杉粒・麻実・粟粒
鴻山 無量寺	1633	土製阿彌陀佛像	稲など三穀と五葉
ソウル 華湊寺	1649	地藏菩薩像	2粒の稲を含んだ五穀と五香
温陽民俗博物館	1778	木造大勢至菩薩像	3粒の小麦と小片の木皮・3粒の稲と丁香・稷と桂皮・5粒の菘豆と乾いた花と葉と幹・麻子と茴香と草

表4 日本仏像の中での薬用植物の発見事例
Table 4 Findings on the medicinal herbs in the Japanese Images of Buddha

所藏所名	造成時代	仏 像 名	遺 物 内 容
京都 鞍馬寺	1127	吉祥天像	経巻・五種香・土砂
京都 愛染院	平安時代	十一面観音像	聖天像・丁子香一袋・削り香木一包
奈良 当麻寺	平安時代	十一面観音像	鏡・五穀の籾・粟・胡麻・小豆
京都 清涼寺	1221	地藏菩薩像	経巻・香袋・木実・真綿・蝙蝠扇など
奈良 東大寺	1225	釈迦如来坐像	陀羅尼・経巻・舍利・白檀香など
京都 寂光院	1229	地藏菩薩像	陀羅尼・経巻・香袋・木実・真綿・獣皮など
奈良 西大寺	1249	釈迦如来坐像	経巻・錦袋・抹香包・蓋紙など
奈良 中宮寺	1269	文殊菩薩像	経巻・舍利袋・錦断片・香二包など
大阪 道明寺	1286	聖徳太子像	経巻・錦袋・香木一括など
京都 龍吟庵	1304	大明国師像	五輪小塔・舍利袋・伽羅断片など
山口 国分寺	1699	薬師如来像	米・大麦・小麦・大豆・白水晶・紫色鉛ガラス・青色鉛ガラス・石灰石・金箔・銀箔・人蔘・丁香・白檀香・石菖蒲など

表5 中国・韓国・日本で繊維類資料の保存のために使われた薬用植物
Table 5 Medicinal herbs used for preservation of plant fibers in old China, Korea and Japan

国名	使用例	薬 用 植 物 名
中国	そのまま使われる 合香に使われる 染め物に使われる 接合剤に使われる 仏像の中に用いられる	木瓜・芸香・皂莢・蒿苳・茱萸・角蒿・青蒿子・石菖蒲・零陵香・白芷 樟腦・白檀・薰陸香・大黃・青桂皮・苜蓿香・丁香・藿香・沈香・甘松香・牡丹皮・零陵香・青木香・艾納香・茅香・三奈子・白芷・松子 黄蘗・山椒・蜀椒・胡椒・辣椒・百部 乳香・川椒・苦楝子・白芨・百部 沈香・安息香・檀香
韓国	そのまま使われる 合香に使われる 染め物に使われる 接合剤に使われる 仏像の中に用いられる	川芎・菖蒲・芸香・煙草・蓬・花椒・樟腦・蒿苳 茅香・零陵香・丁香・藿香・沈香・甘松香・白芷・八角香・桂皮・大茴香・竜腦・乳香・白檀香・安息香・厚朴 黄蘗・藍・黄連 川芎・菖蒲 丁香・藿香・沈香・甘松香・白檀香・肉桂・桂皮・山奈・胡椒・乳香・大茴香
日本	そのまま使われる 合香に使われる 染め物に使われる 仏像の中に用いられる	甘松香・川芎・菖蒲・白檀・煙草・蓬・朝顔・樟腦・銀杏・唐辛子・蘇鉄・麻 零陵香・丁香・藿香・沈香・甘松香・白檀・竜腦・梅仁・菊・薰陸香・山椒 黄蘗・藍・丁子香・山茶・柿渋・鬱金・銀杏・芸草 沈香・丁香・白檀香・石菖蒲

混ぜて使った（苗村：1993）。箆笥の中には朝顔・唐辛子・白檀香・銀杏・煙草・川芎・菖蒲・蘇鉄・蓬・麻・樟脳を入れたり，銀杏・藍などで染めて防虫した（沓掛：1970，高槻：1960）。胎内納入物とは少し性格がちがうけれど，佛像の手に乗せていた薬壺の中から五穀や白水晶と一緒に人参・丁香・白檀香・石菖蒲などの薬香が布袋に包まれて出たり（奥田：1997，1998），舍利容器などでもその中に丁香・沈香・白檀香が見られる（景山：1978，1986）。

以上，中国，韓国，日本で防虫剤として用いられた薬用植物を纏めてみると表5のとおりである。

本研究の一部は日本文化財科学会第14回大会（1997，天理）で発表した。

謝 辞

本研究を進めるにあたり，ご教示いただいた韓国慶熙大学校の南潤子・金仁淑，韓国文化財研究所の韓成熙・李奎植，紙類文化財研究院の金杓永，国文学研究資料館史料館の青木陸，宮内庁書陵部の榎筒節男，宮内庁正倉院事務所の成瀬正和，成城大学短期大学の清水真澄，名城大学の奥田潤，東京家政学院大学の芳賀登，駒沢大学の飯島武次，昭和女子大学の嗣永芳照・古澤寛行・ジェイムズゴッドリー，以上の諸先生に，また写真の転載を許可された韓国温陽民俗博物館，神奈川県立歴史博物館の薄井和男先生，宮内庁正倉院事務所にも謝意を表します。

参考文献

- 奥 健夫（1997）清涼寺・寂光院の地藏菩薩像と「五境の良薬」佛教藝術 234：87-116
- 奥田 潤・伊東史朗（1997）薬師如来像の薬器（壺）. 薬史學雑誌 32（2）：235-254
- 奥田 潤・久田陽一・奥田和代・川村智子・野呂雄史（1998）周防国分寺薬師如来像の薬壺の内蔵物調査. 薬史學雑誌 33（1）：49-62
- 景山春樹（1978）東福寺龍吟庵無閔禪師骨蔵器. 佛教藝術 48：71-74
- 景山春樹（1986）『舍利信仰』東京美術
- 菊竹淳一（1974）対馬・壱岐の朝鮮系彫刻. 佛教藝術 95：16-38
- 沓掛伊佐吉（1970）『曝書史稿』二宮三房
- 倉田文作（1970）像内納入品. 『日本の美術』86：19-20
- 清水真澄（1981）五臓六腑のある宋代木造菩薩半跏像. 佛教藝術 135：49-60
- 周室中（1984）古代保護紙質文物的薬物防蝕技術. 中原文物 30：87-92
- 正倉院事務所編（1995）『正倉院寶物』5 中倉 毎日新聞社
- 正倉院事務所編（1996）『正倉院寶物』2 北倉 毎日新聞社
- 沈括著・梅原郁訳註（1978）『夢溪筆談』1 東洋文庫 平凡社
- 銭存訓著・宇都木章訳（1986）『中国古代書籍史』法政大学出版局
- 孫應奎 『香奩潤色』（明代）身体部 中 宮内庁書陵部蔵

孫思貌 『千金翼方』(元版) 卷之五 熏衣浥衣香第六 宮内庁書陵部藏

高槻智恵子 (1960) 江戸時代の衣類整理についての一考察. 大阪樟蔭女子大学紀要樟蔭家 政学 11 : 35-48

田中 誠 (1991) 植物を用いた江戸時代の書籍害虫防除法. 家屋害虫 13 (2) : 86-90

田辺三郎助 (1969) アメリカ・カナダにある中国木造像 (二). MUSEUM 205 : 29-34

田辺三郎助 (1978) 像内納入品. 『重要文化財』別巻 I, II 毎日新聞社

丹波康頼著・楨佐知子訳 (1994) 『医心方』26 筑摩書房

苗村丈伯著・長友千代治校註 (1993) 『女重宝記・男重宝記』現代教養文庫

潘吉星 (1979) 『中国製紙技術史稿』北京文物出版社

松島順正 (1975) 防虫剤麝衣香について. 『日本の美術』105 : 94

山田憲太郎 (1963) 香料. 『明治前日本応用化学史』: 183-330 日本学術振興会

姜仁求 (1975) 瑞山文殊寺 金銅如來坐像佛腹藏遺物. 美術資料 18 : 1-18

文明大 (1968) 洪城高山寺佛像의 腹藏調査. 考古美術 9 (1) : 366-367

閔泳珪 (1966) 長谷寺 高麗鐵佛 腹藏遺物. 서울延世大學校人文科學 14・15合輯 : 237-247

麴賢淑 (1978) 朝鮮朝史庫의 藏書管理. 奎章閣 2 : 11-56

温陽民俗博物館編 (1990) 韓國의 佛腹藏遺物特別展. 啓蒙社 : 1-6

温陽民俗博物館編 (1991) 『1302年 阿彌陀佛腹藏物의 調査研究』啓蒙社

鄭良婉 (1975) 『韓國服飾史資料選集』(朝鮮篇III) 寶晋齋

趙潤相 (1978) 古書籍의 科學的 保存. 奎章閣 2 : 1-10

崔夢竜 (1977) 莞島 觀音寺 木造如來坐像 腹藏遺物. 美術資料 20 : 63-70

韓美京 (1990) 衣生活風俗. 『華城郡의 歷史와 民俗』: 165-177

許浚 (1610) 『東醫寶鑑』4 서울驪江出版社 (1994)

許興植 (1986) 14 세기의 새로운 佛腹藏 資料. 文化財 19 : 46-58

洪萬善 (肅宗代 18세기) 『山林經濟』II 財団法人 韓國民族文化推進委員會(1983)

洪潤植 (1984) 朝鮮初期 上院寺文殊童子像에 대하여. 考古美術 164 : 9-22

Yetts, W. P. (1936) A Dated Bodhisattva Image from the Eumorfopoulos Collection. Burlington Magazine, 68 : 220-231

**Studies on repellent effects of medicinal herbs used in preservation
of objects made from plant fibers (Part I)
— Historical note on use of medicinal herbs
in old China, Korea and Japan —**

Migyeong HAN, Masumi OSAWA and Kiyohiko SAKURAI

Faculty of Literature, Showa Women's University
1-7 Taishido, Setagaya-ku, Tokyo 154-8533, Japan

Throughout the ages, the use and validity of natural plant substances, so-called, herbs to protect against insect pests in fibrous cultural properties such as paper and clothing have been studied in China, Korea and Japan. Various methods have been utilized to protect fibers in these three countries. These medicinal herbs are often put into bookcases or wardrobes directly or in a mixed form to protect fibrous products from harmful insects that eat wood and often substances. And sometimes the juice of medicinal herbs is dyed and mixed in paste form. On the other hand, scrolls, bookcases or chests of drawers are even made of trees that already contain medicinal properties. The varieties of applications for using insect repellent herbs are as follows :

1. Medicinal herbs such as powders and fragments : ginkgo, tobacco, mugwort (蓬), red pepper, morning glory (朝顔), sandalwood (白檀香), hemlock parsley (川芎), lettuce (萵苣), southern wood (青蒿), soap bean tree (皂莢), chinese quince (木瓜), angelica (白芷), camphor wood, evodia (吳茱萸), flax seed (麻仁), calamus (石菖蒲) and chrysanthemum, etc.

2. A mixture of various herbs giving off strong aromatics : clove (丁香), sandalwood, frankincense (乳香), rhubarb (大黃), aloe wood (沈香), spikenard (甘松香), benzoin (安息香), machilus bark (厚朴), moutan bark (牡丹皮), korean pine nut (松子), cassia bark (桂皮), borneol (竜腦), saussurea root (唐木香), camphor wood and angelica, etc.

3. Medicinal herbs used as dyes : yellow bark (黃蘗), indigo, camelia (山茶), Japanese pepper (蜀椒), pepper, clove, red pepper, ginkgo, coptis root (黃連) and persimon, etc.

4. Medicinal herbs used as pastes : hemlock parsley, calamus, melia bark (苦楝皮) and frankincense, etc.

5. Containers made of wood with medicinal properties : cedar and paulownia (桐), etc.

6. Some of the plants enshrined in Images of Buddha serve to ward off insects : clove, sandalwood, benzoin, pepper, licorice (甘草), aloe wood, cassia bark, cinnamon (肉桂), frankincense and spikenard, etc.